

Pick Up! 社内研修会

～ 三善先生、浅野先生、瓜坂先生を迎えてACLサミット開催 ～

2013年4月6日、弊社技工士の技術的な成長を目的とした「ACLサミット」を弊社社内にて初開催致しました。



第一回目の今回は、歯科技工士界でも名を馳せる著名な先生方、三善由高先生、浅野正司先生、瓜坂達也先生の3名の方々にご来社頂き、浅野先生の「色調再現」をテーマにした講演、瓜坂先生のデモンストレーション、最後に3名の先生方によるディスカッションと質疑応答を行って頂きました。大変貴重な、夢の様な講演に弊社技工士も数日前から色めき立ち、当日を楽しみにしておりました。正に貴重な講演、一言も聞きもらさじと食い入る様に拝聴させていただきました。下記に弊社技工士達の感想を記載させていただきます。

■大変勉強になりました。浅野先生の講演は実際の臨床ケースを使ったシェードの見方についてであり、今まで自分がしてきたやり方が未熟だった事に気付かされました。瓜坂先生の築盛デモについても、MBのオパーク処理から、オパークスデンチンを使って骨格を作ったからのボディー築盛、多色を使つてのENAMELの築盛、そこでの透明感の出し方や歯頸部での透明感の処理の仕方、白帯の作り方、インサイザルヘイローの作り方など、色々勉強になりました。最後のディスカッションについても、ホワイトニングシェードについて色の出し方工夫、フルジルコニアやe.maxステイニングの考え方など聞くことができ良かったと思います。(架工部部長 菊地栄二)

■浅野先生のレクチャーは色についてだったが、自分自身、色のトラブルがあった時にどういう対処をしていけば良いのか、いつも悩んでいたのが、大変参考になった。
・光源の種類(太陽光、蛍光灯、LEDなど)によっても見え方が異なる。
・光の進入角度、拡散の仕方によっても見え方が異なる。
この事をふまえて、シェードテイク時の写真撮影では写す角度、光源に気をつけていく事が正確な色調再現につながってトラブルを回避できる事がわかった。
瓜坂先生のレクチャーはMBの築盛だった。あらかじめボディー築盛前に上下的な収縮の軽減とフレームの切縁付近の透過をふせぐためにコア形態をつくっておく方法で、浅野塾でも実践されている。マメロンの築盛はセカンドカットバック法で舌側のキャンパス作りからはじまり、透明感の違いによって使う陶材の種類と厚みを変えていくもので大阪セラミックでも実践されている。浅野塾と大阪セラミックの技法をマッチングさせた、とても参考になるデモであった。(架工部第一課課長 北詰浩久)

■貴重な講演を「体感」するような気持ちで聞き入りました。浅野先生の講演では、日ごろの技工作業における材料の特性などを良く理解しておくことが重要であり、合格点を外さないテクニックを身につける必要があるということでした。瓜坂先生はシェードの選択をするのにモノクロの状態で明度をまず合っているものを選ぶと色を外す事がなくなるというものでした。また、PFMのデモンストレーションでは、MPを使用した単独歯における両隣接や反対側の歯冠色にどんな色が入っているのか、そして、それがどの陶材を使用し、どの配分で混ぜて使い、どこに置いていけば良いのかをとても深く考えた内容で、私たちに伝えてくれました。最後の質疑応答ではとてもフランクに答えてくださり、大変勉強になりました。(架工部第三課課長 増山崇俊)

■三善先生、浅野先生、瓜坂先生と3人の著名な方々の話を自分が働いている会社で聞けるなんてすごいなと思いました。まず浅野先生には色の話をさせて頂きました。色調の邪魔をするのは透明色である、毎回同じ水分コントロールで築盛し、焼成した時にどれくらいの収縮になるかを知っておく。安定した色調を出す訓練をして、クリアランスの問題があっても同じ色で築盛できるように、などの話を頂きました。そのあとは瓜坂先生の築盛を見せて頂きました。オパークは平筆で塗る、筆はMB、ZRを分ける、などのデモから始まり、歯頸部は変色している時と、そうでない時の築盛のやり方、歯牙の色ぬげが強い・普通・ぬげがない時の築盛のやり方、マメロン、白帯の築盛などを見せて頂きました。これらの見た物、聞いた事を日々、自分がやった仕事で出せれば良いなと思いました。(架工部第四課課長 長沼剛史)



■浅野先生のシェードテイキングの実際と色調についてのお話を聞き、色の考え方として、色相、彩度、明度の説明があり、パソコンを使用しての天然歯のシェード確認と陶材の選択の方法は大変参考になった。瓜坂先生の築盛デモはチョークを使用した分かりやすい陶材築盛であり、目の前でカットバックや色々なテクニックを披露して頂き、大変参考になった。天然歯形態やカットバック形態といった基本が大事だと感じた。このセミナーで学んだ事を踏まえ技術を身につけたい。(架工部第三課 福島昌昌)

■瓜坂先生のデモでは、陶材のレシピを詳しく説明して下さい、筆の動かし方から切縁付近の透明感の表現の仕方など細かな所まで、時には笑いを交えながら教えて下さった。瓜坂先生のハンマーは使いこんで変形しており、それが膨大な数の経験を語っている様に思え、技術を身につけるには練習と経験を積み重ねるしかないと感じました。日々、新しい材料・技法が確立されるなか、時代に取り残される事のない様、勉強し続けなければならないと感じました。(架工部第一課 森田健二)

i-CASTワールド2013 — 今知っておきたい義歯の臨床 —

2013年4月21日、東京都千代田区ベルサール神田にて開催され、総勢180名を超える歯科医師・歯科技工士が参加し盛大なセミナーとなりました。弊社からは、長谷川正洋・森山徹の2名が参加致しました。講演は以下の内容で行われました。

- 下顎総義歯の辺縁をどのように設定するか…村岡歯科医院院長/村岡 秀明 先生
- 落着点をとらない総義歯治療 最低限おさえるべき咬合採得のポイント…ナカ工歯科クリニック院長/前畑 香 先生
- パーシャルデンチャーの「設計と考え方の限界」…千駄木あおば歯科院長/谷田部 優 先生
- ノンメタルクラスデンチャーの「構造と設計を考える」…南青山歯科クリニック副院長/林 大悟 先生

「ドイツ口腔インプラント学会(DGZI) 第42回学術大会」に参加して

— 日本とドイツの歯科事情の違いを顕著に感じる海外視察となる —

Reporter 宗村裕之(群馬県太田市/足利セラミックラボラトリー)

2012年10月5日(金)6日(土)の両日、Elysee Hotel(ドイツ・ハンブルグ)にて標記学会が開催された。ドイツ口腔インプラント学会(DGZI)は、ドイツを本拠地として本国に4000名、全世界に12000名以上の会員を有する、ヨーロッパにおいて最大かつ最古のインプラント学会であり、日本では国際口腔インプラント学会(ISOI)と提携して、年一回の学術大会や各種講演会を開催している。

本国における42回目の学術大会となる今回は、「Qualitätsorientierte Implantologie-Wege zum Langzeiterfolg(インプラントの品質向上—長期的な成功への道)」をテーマに特別講演、メーカー主催セミナー、国際学会セッションなど多彩なプログラムが組まれ、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士など500名以上(日本からは25名)が参加した。本稿では、本学会の前日に筆者らが参加した歯科医院・歯科技工所(医科、ラボ)の見学会と本学会が併催するデンタルショーの様相と合わせて当日の様子を報告する。

■歯科医院、ラボ見学会 ドイツの歯科事情を知る

学会前日の歯科医院およびラボの見学会では、まず根管治療から矯正治療、補綴治療、インプラント治療まで幅広く扱う、全面ガラス張りの近代的な建物に入居する歯科医院「Die Zahnarzt Harbestehude」を訪れた。同委員は床面積が約100m²あり、内部は非常にゆったりとした空間になっていた。また、天井に添え付けの照明の光量を落とす一方で、足下にある照明の明るさを強くするなど、患者がリラックスできるための配慮が随所に施されていた。そのほか、院内にはラボが併設されており、矯正装置のみを自前で製作していた。

次いで、日本人で2番目に歯科技工マスターの称号を取得した大川友成氏が経営するラボ「Okawa Zahntechnik」を見学した。ラボ内にはヨーロッパならではのデザインが各所にあしらわれており、大川氏のほかに2名のドイツ人社員が働いていた。作業用模型の数に比べて完成補綴物が少ないことを大川氏に尋ねると、「ドイツではラボが高額な技工料金を歯科医院に請求することが普通であるため、日本のように多くの補綴物を製作する必要はありません」と話していた。その後、Jalilvand氏(Zahnarztpraxis Dr.Jalilvand)が院長を務める歯科医院を訪れた。こちらの医院は歯科医師1名、スタッフ2名の人員で経営しており、根管治療、補綴治療、インプラント治療のみを取り扱っていた。こちらも床面積が広く、解放感のある内装となっていた。昼食後は、Werner Stermann氏(STERMANN WERNER DR.DR.ZAHNARTZ)が営む歯科医院にて、ソケットリフトおよびサイナスリフト(上顎洞挙上術)の外科手術を見学した。歯科技工とは直接関係のない手技ではあったが、チェアサイドワークの大変さを肌身で感じられ、筆者にとっては非常に有意義な時間であった。手術見学後は19時よりDGZI執行部のRolf Vollmer氏、Mazen Tamimi氏、Rainer Valentine氏らと交えたオープンパーティーに出席した。



■ドイツ口腔インプラント学会 3名の日本人歯科医師が登壇する

学会の初日にはまず、DGZIとISOIの執行部会議に参加した。日本から筆者を含めて4名、ドイツから3名の歯科医師・歯科技工士が出席された本会議においては、両者の提携関係の維持が確認された。午後からは国際学会セッションが行われ、日本からは本学会にて「Oral Implantology Specialist」としての認定を授受している林昌二氏(横浜市神奈川区/神奈川歯科大学附属横浜研修センター横浜クリニック)、山下修氏(横浜市青葉区/山下歯科医院)、江崎友大氏(東京都世田谷区/江崎デンタルクリニック)の3名が登壇した。中でも林氏は「Clinical evidence and current future implant concepts in Yokohama clinic of Kanagawa Dental College」をテーマに、インプラント見学を目的としたドイツ留学での経験談や、勤務先でのインプラント治療に関する臨床データなどを発表した。学会終了後は20時よりコンgresパーティーに参加した。



■デンタルショー 韓国メーカーの勢いを实感する

最終日は、本学会が併催するデンタルショーに参加した。特に印象に残ったのは、3M ESPE社製のミニインプラントであったが、狭く、薄い顎骨を有する患者が多い日本において広く普及するかどうかについては疑問が残った。また、日本では未発売の製品が多くあり、ヨーロッパと日本との販売経路の違いを再認識したほか、韓国のおステム社がインプラントメーカーの中でシェアを伸ばしているようにも感じられた。



未筆ながら、今回の一連の海外視察に通訳として同行して下さった大川友成氏に深く感謝の意を表します。

群馬県歯科技工士会講演会(生涯研修・自由研修課程)

2013年2月3日(日)、群馬県生涯学習センターにて群馬歯科技工士会講演会が行われ、弊社代表の宗村裕之が登壇いたしました。

講演内容は、「デンタル CAD/CAM の活用法」と題し、①CAD/CAM 種類の説明、②実際に使用した CAD/CAM の解説と感想、③これからの歯科の流れについてなどを解説しました。①②について、CAD/CAM の歴史、種類、利点・欠点、コストなどの説明を、③について、CAD/CAM など新しい機械が出て来るが、今まで行われて来た技工物製作に必要な知識は変わらない。だからこそ、機械を今までの仕事の中にどの様に取り組みで行くのが大切であるとの意見を述べました。

学術委員の吉村考撰氏からは、「日々研鑽を積むことの重要性を再認識した。歯科技工の技術や材料は今後も進化し続けるだろうが、その変化に取り残されないように今後も精進を重ねていきたい。」(一部抜粋)との感想をいただきました。



2011円で繋ぐいのちの音

～ 東日本大震災復興支援チャリティコンサート ～

2012年7月8日、仙川アヴェニュー(東京都調布市)にて、弊社も後援企業として応援しているコンサートが開催されました。

当コンサートは国際口腔インプラント学会や陶友会(マスターセラミストスクール卒業生によるスタディグループ)のイベントでもアナウンサーとして活躍されている茂木亜希子さんと、そのご友人、妹尾美里さんのお二人が主催となり、東日本大震災の復興支援を目的として開催されました。プロとして活躍されている方々がノーギャラで集い、「震災を忘れない為に」との思いで設定された入場料2,011円も全額寄付するとの事でした。

